



「イーストスプリング・インド株式オープン（資産成長型）」を設定

PRESS RELEASE

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO 関崎 司）は本日付で「イーストスプリング・インド株式オープン（資産成長型）」（以下、「当ファンド」）を設定いたしました。

当ファンドは、モーリシャス籍外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ・インド・エクイティ・オープン・リミテッド」への投資を通じて、主としてインドの金融商品取引所に上場されている株式に実質的な投資を行い、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。運用にあたるのは、当社のグループ会社のイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）リミテッドです。

インドは約 13 億人と世界第 2 位¹の人口を有し、若年層に厚みがある豊富な労働力と、消費拡大の可能性を持つアジアの超大国です。2017 年 10-12 月期の実質 GDP（国内総生産）成長率は前年同期比で+7.2%と、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）諸国の中では最高となりました²。2018 年から 2022 年の GDP 成長率の予想平均も前年比 +7.9%³と継続的に高い経済成長が期待され、2030 年には日本を抜いて世界第 3 位の経済大国になる見込みです⁴。2014 年 5 月の誕生以来、強力なリーダーシップにて諸改革を推進してきたモディ政権にとって、2017 年も力強い歩みの年となりました。GST（物品・サービス税）の導入による間接税体系の一本化、2016 年 11 月に実施した旧高額紙幣廃止による電子決済の急増及び銀行口座数の増加、それに伴う個人投資家層の拡大、及び高速道路や鉄道網の建設等インフラ整備の加速等が主な支援材料となり、2017 年はインド株式市場にとっても大きな飛躍の年となりました。

このように経済成長を続ける現在のインドは、1960 年代の高度経済成長期の只中にあった日本の状態と類似しており、今後も力強い経済成長を続けることが期待されます。弊社では「イーストスプリング・インド株式オープン」（2004 年 9 月設定）及び、「イーストスプリング・インド株式ファンド（3 ヵ月決算型）」（2007 年 12 月設定）を多くの投資家の皆様にご利用いただいていた。そしてこの度、このインドへの投資機会のさらなる拡充を目指して、従来の年 1 回決算型、3 ヵ月決算型に加え、分配水準の決定においてより元本の成長を重視する「資産成長型」を設定する運びとなりました。

【インド株式の魅力】

① 企業収益拡大への期待

モディ政権が進める諸改革に後押しされた今後の企業収益の拡大期待を背景に、現在、インドの株価指数は史上最高圏で推移しています。この傾向は向こう数年間続くと見られており、インドの代表的な株式指数である SENSEX 指数の 2018 年から 2020 年までを見ても 1 株あたり利益の年平均成長率見込みが約 20%⁵と、さらなる企業収益の拡大が見込まれています。

EastSpring Investments Limited
Marunouchi Park Building, 2-6-1 Marunouchi
Chiyoda-ku, Tokyo 100-6905
www.eastspring.co.jp

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
〒100-6905 東京都千代田区丸の内 2-6-1
丸の内パークビルディング
www.eastspring.co.jp

② 経済規模との比較でみた、さらなる上昇の可能性

現在、インド株式市場の株価の水準は過去最高値圏にあるものの、同国では高い経済成長が続いているため、経済規模との比較でみると過熱感は見受けられません。一般的に株式市場はその国の経済規模（名目 GDP）の成長と共に拡大する傾向があり、SENSEX 指数も今後さらなる上昇の余地があると考えられています。

<SENSEX 指数と、インドの名目 GDP の推移（2003 年末～2022 年末）>



出所：Bloomberg L.P.、IMF 世界経済見通しデータベース（2017 年 10 月）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。*SENSEX 指数は 2018 年 2 月末までの実績値。**2018 年以降の名目 GDP は IMF の予測値。

③ 拡大するインド国内投資家の株式投資

インドの国内投信からのインド株式への流入額は、2015 年から 2017 年の 3 年間で約 360 億米ドルに上り⁶、同市場への外国人投資家の純流入額を大きく上回る水準となっています。とりわけ積立投資を通じた資金流入は加速しており、近年拡大を続けるインド株式市場を下支える大きな要因の一つとなっています。

当ファンドの設定にあたり、弊社代表取締役社長兼 CEO である関崎 司は、次のように述べています。「インド市場は中国に次ぐアジアの超大国として、今、世界中の投資家の熱い視線を集めています。現在、弊社では株、債券の計 6 本⁷のインドを投資対象とする国内公募投信を通じて、多くの投資家の皆様にこの成長著しいアジアの超大国インドへの投資機会をご提供しております。日本の個人投資家の皆様の資産運用を取り巻く環境が大きく変化しつつある中、分配水準の決定においてより元本の成長に着目する「資産成長型」の選択肢を新たに追加することにより、より一層、多くの投資家の皆様に弊社のインド関連商品を資産運用にお役立ていただくことを願っております。」

弊社ではグループのグローバルネットワークを最大限に活用して、引き続き日本の投資家の皆様の中長期的な資産形成に貢献できるよう、邁進してまいります。

出所：

- 1,3 IMF 世界経済見通しデータベース（2017 年 10 月）。
- 2 Bloomberg（2018 年 3 月 13 日時点、ロシアのみ予測値）。
- 4 PwC “The Long View How will the global economic order change by 2050? February 2017”。
*PwC がイーストスプリング・インベストメンツの特定の金融商品等を推奨するものではありません。
- 5 Bloomberg（2018 年 3 月 20 日時点）。
- 6 Kotak International Securities。
- 7 イーストスプリング・インド株式オープン、イーストスプリング・インド株式オープン（3ヵ月決算型）、イーストスプリング・インド消費関連ファンド、イーストスプリング・インド・インフラ株ファンド、イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド（毎月決算型）／（年 2 回決算型）。

【イーストスプリング・インベストメンツについて】

イーストスプリング・インベストメンツは、世界有数の金融サービスグループを展開する最終親会社のアジアにおける資産運用事業部門です。イーストスプリング・インベストメンツは 2017 年 12 月末時点で約 1,389 億ポンド（約 21 兆円、1 ポンド=151.95 円）の運用資産を有するアジア最大級の資産運用会社であり、最終親会社は 165 年以上の歴史を有し、英国、米国、アジアなど世界各国で金融サービス業務を提供しています。

イーストスプリング・インベストメンツは日本をはじめシンガポール、香港、韓国、インドネシア、マレーシア、台湾、ベトナム、ルクセンブルグ、米国、英国で資産運用事業を展開し、さらに中国、インド、香港では合併事業を行っています。現在では 13 のマーケットで資産運用事業を展開しています。

【イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 会社概要】

- ◆ 設立： 1999 年 12 月
- ◆ 資本金： 6 億 4,950 万円
- ◆ 住所： 東京都千代田区丸の内 2-6-1 丸の内パークビルディング
- ◆ 登録番号： 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 379 号
- ◆ 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
- ◆ ホームページ： <http://www.eastspring.co.jp/>
- ◆ 運用資産残高： 約 1 兆 1,025 億円（2017 年 12 月末時点）

【本プレスリリースに関して】

- ※当資料は、報道関係の皆様に向けて作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※当資料は、投資勧誘を目的とするものではありません。